

# 日ごろから顔の見える関係が大切

5月21日(日)に、米谷自治会・宝塚売布住宅自治会共同開催の“まめだより防災フェスタ”が開催されました。当日は高齢の方から小さなお子さんまで大勢の方が参加されていました。

防災グッズ等の展示、テクニカルパフォーマンス(物干し竿と毛布で担架作り・ロープの結び方・ジャッキアップの仕方)、初期消火訓練、AED講習が行われました。

「どうやったらこのロープの結び方できますか?」「心肺蘇生法は何回したら良いのですか?」等々、皆さん熱心に質問されていました。



家庭で揃えられる防災グッズ



ロープの結び方に大苦戦



物干し竿と毛布で担架作り



ジャッキアップで重いものを持ち上げます



皆さん災害に備えていますか?



消防車の内部紹介



心肺蘇生法では、かけ声が響き渡ります



地区の防災マップ



丁寧に米を洗います



お味噌汁も簡単にできます



宝塚ココロンクラブの皆さん

「ご飯がしてくれる子どもをつくる」  
緑の下のおばちゃんたち  
〜宝塚ココロンクラブ〜

メニューは、鮭ごはん、すまし汁、高野豆腐の含め煮、三度豆、あんみつ。7月末の夏休みの一日に子どもたち20名がこの献立で食事作りに挑戦する「ひとりでごはん炊けるかな?」の打合せ会におじゃました。

宝塚ココロンクラブのおばちゃん(……)たちは、子どものサポート役となるわけだが、子どもに作り方を伝える役目、作るのを見守る役目、子どもからの話を聴く大人としての存在、一緒に食を楽しむ役目etc.たくさん役割を担うことになる。中でも、絶対に外せないこの企画の大目標は「お米が炊ける」という、子どもにとつての生きるための力を育むことがある。

打合せ会の中でも「最近のお米は精米状況がいいので優しくサラサラと洗います。昔みたいに力を入れて研ぐとお米が割れてしまうから気を付けてください。」と言っておられたことが印象的であった。

当のおばちゃん(……)たちは「子ども達から元気をもらえるのが私たちの元気になっているのよ!」とあっけらかんとおっしゃる。子どもと大人の自然なつながりは、子どもにも大人にも力を湧かせている。(下ロク)

象的であった。汁物についてもポイントがある。「味噌汁でもおすましでも構わないが、ダシは一からとったりしません!」と。米・塩・味噌・だしの素という、どの家庭にもあるものを使うというのが基本なのだ。

ところで宝塚ココロンクラブとは、元は県民局主催の人材育成講座の卒業生で立ち上げたとのことであるが、代表の関戸さんが自宅を開いての高齢者のサロン活動をされているなど、お得意の人脈づくりを活かして仲間を増やしておられるとのこと。フレイム宝塚やコープ、社協と連携協力をしながら、青少年育成を中心とした地域づくりを目指しておられる。